



百年史編纂を祝す

浜田市教育委員会委員長

林 光 博

原井小学校沿革史によると、明治六年原井宝珠院を仮用して原井小学校を創設するとある。あれから大正昭和と百年を経過し、校地も校舎も校名も幾度か変って、今日の原井小学校に成長した。その開校百年記念事業の一つとして百年史の編纂を企画された。

この事業は実に地味で骨の折れる仕事であるが、次に来るべき百年の教育を展望する時最も緊要で本質的な仕事である。永々後世に遺す文の碑を建てることになるのである。ここに着目された百周年記念事業実行委員会に対し深く敬意を表するものである。

編纂の内容としては、学校百年の歩みを年を追うて克明に確め、それが裏付けとなる資料を蒐集し必要なものを選択して写真にのせる時、沿革をはっきりさせることに力を注ぎ、教育経営の内容としては、この百年を戦前の教育、戦後の教育と大きく区分し、更にそれぞれを凡そ十年を単位として、原井校経営の内容が盛られている。時代の動きとともに教育思潮も進み、教育方法に求められるものも変ってきた。その間原井小学校はこの地域の名門校として、時には女子師範学校代用附属小学校として、新しい思潮を大胆且つ慎重に採りいれ、新しい教育方法を開拓して、その先駆的役割を果たしてきた歴史が記述されている。近くは健康優良学校日本一となり、ただに浜田市島根県だけでなく、全国教育界の注目を浴びるに至った。後世日本教育史研究の重要資料となることを疑わない。

又旧職員、卒業生の名簿も整理して載せられた。一見名前や卒業年次住所などの羅列に何の意味がわくかと思われるが、実になつかしく時に思わず半日位を、名前を追って過した後で気付くという体験を持たれた方々も少なくないであろう。しかしこの名簿の整理は実に骨の折れる仕事である。その上旧職員から卒業生から年代各層にわたって思い出がのせられた。これは原井校教育を多面的に立体的に肉付けされ、その時代その時代の学校の動き、先生方の動向、児童の姿、PTA活動などが活写されていてまことに興味深いものがある。

眼を転ずれば、昨年は国の内外共にショックな事件が相次いで起った。そして来るべき不況の予想に戦きながら、昭和四十九年の新しい暦がめくられたのである。今年の日本の石油危機にもとづく経済界の暗雲や、政界の異変はもとより大問題である。しかしもっと根本的な重要問題は学制発布以来一世紀を経たことである。日本の就学率は九九・八三パーセントで世界一といわれ、学校の整備充実も幾多の不満はあっても、世界のAクラスである。そして全世界の人々の眼を見張らせる経済成長をとげた日本ではあるが、精神面の弛緩と荒廃は掩うべくもない。

この書の中に記述された原井小学校の美しい伝統の中に、次に進むべき我国の教育方向が力強く示唆されているものが多いことを確信するものである。